第44回
日本外来臨床精神医学会
研究会

2019年11月10日

於　立正大学品川キャンパス第7会議室

第44回研究会　症例提示・ワークショップ

「初診でどう診断し、告知し、治療同盟をつくるか
症状の構造的把握」

市橋　秀夫
（市橋クリニック　院長）

抄　録

再診率とは初診から次回にどの程度治療につながるかと目安であるが、再診率が低いことは医師に対する患者の失望が高いことを意味している。私たちが患者であれば、どうしてそのように診断されたのか、そもそもどういう病気なのか、どうすれば治るのか、どのくらい期間がかかるのか、薬の副作用はあるのかなどを知りたいと思う。それらが説明されないまま投薬だけ行われば精神科医療に患者は失望し、来院しなくなるのではないか。現代の精神科医は脳内科医であると故永田俊彦先生は慨嘆されていた。

今回の症例提示は日常のありふれたケースを選んだ。私のやり方を開示するとともに、診断の進め方、診断の根拠、患者に対する病理の説明、治療計画などを３段階に渡って提示し、質問事項に対して参加者が討論するという、一種のスパービジョンの形式で行うことにした。

＊症例（詳細）は誌面掲載なし